

馬産地ライター村本浩平の 2021 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 1 | 4.14 [水] ▶ 6.17 [木] 開催分



5.4
[火・祝]

ゴールドシップ賞
【コスモバルク記念[H2]】

2歳時にマイクデビュー函館をレコードで勝利し、続くコスモス賞も優勝。2歳から6歳まで28戦を走り抜け、GIレースで6勝をあげているゴールドシップだが、その快進撃は北海道から始まっている。現役時は気性の強さが引き起こした数々のエピソードを残しているが、種牡馬入り後は利発な馬との声がスタリオンスタッフから聞かれている。初年度産駒は2019年にデビュー。その年の札幌2歳ステークスでは、ブラックホールが父に初めての重賞タイトルを授けただけでなく、2着のサトノゴールドと共に、産駒のワンツーフィニッシュを果たした。今後もJRA北海道シリーズでデビューを果たした産駒たちが、父のようにGIタイトルへと駆け上がっていくかも知れない。

5.13
[木]

フィエールマン賞
【北斗盃[H2]】

新種牡馬

国内で行われている芝のGI・22レース中で、既に21レースを制しているディープインパクト産駒。その中でもなかなか勝ちきれなかった天皇賞・春を、2019年、2020年に連覇したのがフィエールマンである。3歳時にも菊花賞を優勝。プロフィール的には芝のステイヤーかと思いきや、2020年の天皇賞・秋では、勝ったアーモンドアイに0秒1差の2着となるなど、スピード能力の高さも証明した。母のリュヌドールは伊GIリディアテシオ賞(芝2000M)の勝ち馬で、フランスでも芝長距離重賞を2勝。豊富なスタミナのよりどころは母譲りと言えそうであり、力のいる馬場もこなせるパワーも備えていた。産駒には父の果たせなかつた凱旋門賞制覇の夢を叶えてもらいたい。

6.3
[木]

マインドユアビスキッズ賞
【赤レンガ記念[H2]】

一見すると、可愛らしい馬名に見えるマインドユアビスキッズ。しかしながら、現役時には勇壮かつ、ダイナミックなレースをファンに見せつけた。テンの速いスプリント戦では不利とされる追い込みでGIレースを3勝。中でもダートスプリントでは世界最高賞金レースのドバイゴールデンシャヒーンを、2017年、2018年と連覇。2018年に記録した1分10秒12の勝ち時計はコースレコードとなっている。スプリントで出色と言える活躍を残しているものの、米GIIIルーカスクラシックS(ダート9F)を優勝するなど、ダート中距離戦でも安定した成績を残している。種牡馬としても一概のスプリンターとして見るのではなく、距離や適性も問わないオールラウンダーとなっていきそうだ。

6.16
[水]

マジェスティックウォリアー賞
【ヒダカソウカップ[H2]】

マジェスティックウォリアーは輸入種牡馬としては珍しく、10歳の時に日本へと導入されている。それも卓越した種牡馬実績を高く評価されたからであり、先にスタッド入りしていたアメリカでは、フレッシュマンサイアーで最多となる勝ち馬頭数を記録。初年度産駒のプリンセスオブシルマーは米GICCAオータス(ダート9F)などGIレースを4勝。輸入馬のベストウォリアーは2014年と2015年のJpnIマイルChS南部杯を連破するなど、ダート短距離重賞で息の長い活躍を見せた。昨年はキャリアハイとなる175頭の牝馬に配合を行っており、それに応じるかのように種牡馬成績も年々上昇中。日本で誕生した産駒からも、そろそろグレードレースの勝ち馬が出てきそうだ。

6.17
[木]

ルヴァンスレー賞
【北海優駿(ダービー)[H1]】

新種牡馬

もし、ルヴァンスレーが6歳を迎えた今も現役生活を無事に続けていたのなら、ダート重賞戦線はこの馬を中心に回っていたのかもしれない。デビューから一貫して砂の上で戦いを続け、JpnI全日本2歳優駿で重賞初制覇。次の年にもJpnIジャパンダートダービーを優勝し、JpnIマイルChS南部杯では3歳馬としては史上初となる勝利をあげる。その勢いのままにGIチャンピオンズCでも古馬を一蹴してみせた。その後は怪我で大成を阻まれたものの、2歳から3歳にかけてのパフォーマンスは、生産者にも強く印象付けられていたようだ。スタッドインしたばかりにも関わらず、配合申し込みは早々に満口となる人気ぶり。父シンボリクリスエスの後継種牡馬としても期待が大きい。

今シーズンは特別競走17レースも
「スタリオンシリーズ競走」として開催!

- 門別1回 ・モンテロッソ賞・フリオーソ賞
- 門別2回 ・アルAIN賞・ワンアンドオンリー賞 初年度産駒デビュー
- 門別3回 ・ホークビル賞・アドマイヤムーン賞
- 門別4回 ・フォーウィルドライブ賞 新種牡馬
- 門別5回 ・ダンカーカ賞・ミスタークローリー賞 新種牡馬
・ワインブライト賞 新種牡馬

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。
※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

